

審査員とともに壇上で開会を宣言する沢田宏一実行委員長=24日夕、アディーレ会館ゆうばり



北海道新聞

発行所
北海道新聞社

郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
©北海道新聞社2011

特集号

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp

ご購入申し込みは
0120-464-104

ゆうばり国際映画祭開幕

デイズニーアニメ上映

今年も映画漬けの5日間。ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2011が24日開幕、初日はメイン会場のアディーレ会館ゆうばりで開会式が行われた後、招待作品のデイズニーのアニメ映画「塔の上のラプンツェル」が上映された。

8会場で80作品上映

21回目となる今年のテーマは「YUBARISM(ゆうばりリズム)」。映画祭が培ってきた観客と市民と映画人による関係を「主眼」を示す「リズム」と、3者が奏でる音楽の「リズム」にかけた。ゲストやファン、市民ら500人が参加した開会式では名誉大会長の藤倉肇市長が「財政破綻で映画祭の灯が消えると、若い人たちが立ち上がって続けてくれている。元氣な夕張を全国に発信したい」とあいさつ、沢田宏一実行委員長が開会宣言を行った。また、オフシアター・コンパティション部門の審査員が紹介され、審査委員

長で映画監督の林海象さんが「映画関係者から夕張は良いと聞いており、初めて来られてうれし



大勢の市民やファンの出迎えを受け到着したゲスト

い。しっかりと映画を見て選びたい」と述べた。映画祭は28日までの5日間、市内8会場で約80本の映画が上映される。26日には午後2時から清水沢小で、人気アニメの映画版「ワンピースフィルム ストロ

市民と交流楽しむ

恒例のもちつきも

ゆうばり映画祭の特徴は、市民による温かいもてなしだ。24日開幕した映画祭では、夕張を訪れた映画関係のゲストや観客を、市民が「お帰りなさい」と出迎えた。同日午後、JR夕張駅にゲストを乗せた特別列車が到着すると、和装や韓国の民族衣装など仮装したグループを含め集まった約200人の市民が小旗を振って出迎えた。ゲストには、ボランティア

アがあげいもや温かいスープを振る舞った。夜にはオーブニングパーティーがホテルシニョーパロで開かれ、ゲストや一般客が交流した。映画祭実行委の沢田直矢ディレクターが「夕張と映画を楽しんでください」と呼び掛け、協賛企業のサッポロビール北海道本社の嵯峨山真戦略企画部長が「来年も再来年も支援を続けます。みんな盛り上げていきましよう」と乾杯した。また、恒例のもちつきでは、審査員で女優の片桐はいりさんや、お笑いコンビ「キャイーン」の天野ひろゆきさんらが交替にきねを振った。

託児所設置

今年の映画祭では小さな子どもを持つ映画ファンのために、27、28の両日、臨時の託児所を設置する。時間は午前10時から午後5時まで。1歳以上が対象で、料金は1時間500円。定員20人。着替えやおむつなどの用意が必要。問い合わせは緑ヶ丘保育園0123・52・1700へ。



保育園児が審査員に花束をプレゼント



交流会でもちをつく 審査員の片桐はいりさん

華やかに開幕



開会式場に入る映画ファン



カラフルな仮装でゲストを待つ『歓迎団』



会場近くに灯されたアイスキャンデル